徳島市立 4連覇

男子は鳴門渦潮が連覇

弓道

（鳴門弓道場）

【男子】団体決勝リーグ（計100射）①鳴門渦潮（松尾、藤髙、三原、竹口、上西、藤田、山田）4勝1敗（65中）②城ノ内4勝1敗（48中）③徳島科技2勝3敗（55中）④徳島市立2勝3敗（53中）⑤城東2勝3敗（53中）⑥阿波1勝4敗（49中）＝4、5位は競射による。

【女子】団体決勝リーグ（計100射）①徳島市立（上田、福岡、齋藤、藤井、山畠、北野、泉谷）5勝（63中）②富岡西4勝1敗（59中）③小松島西2勝3敗（47中）④阿波2勝3敗（46中）⑤徳島科技1勝4敗（50中）⑥城ノ内1勝4敗（49中）

前評判通り頂点

○…前評判の高かった鳴門渦潮男子が順当に頂点に立った。予選を1位通過し、決勝リーグで2勝した後、城東に1中差で敗れた。しかし、続く4戦目では16中し、本来の姿を取り戻した。1敗で迎えた最終戦。負けると優勝を逃す重圧のかかる一戦だったが、徳島科技に1中差で競り勝ち、2連覇を達成した。個人でも2位に入り、優秀選手にも選ばれた竹口は「城東に負けた後、気持ちをうまく切り替えることができた」と振り返った。

薄氷の勝利とはいえ、100射中65中は的中数2位のチームに10本差をつけた。放たれた矢のスピードが速く、的を大きく外れることはほとんどない。藤高主将は「インターハイではベスト8を狙う」と意欲を見せた。

女子団体決勝リーグ　4大会連続優勝を果たした徳島市立の（左から）上田、福岡、齋藤、藤井、山畠＝鳴門弓道場

声援励みに振り切る 徳島市立

6チームで争う決勝リーグ。女子優勝の行方は、全勝同士の徳島市立と富岡西が直接対決する最終戦にもつれ込んだ。

観覧席には徳島市立の控え部員。胸に「真善美」と書かれたそろいの白いポロシャツを着て、的中のたびに「よーし！」と大きな声援を送った。「仲間とこれまでやって来たことを信じて自分の射をしよう」。声援を励みに弓を引いた2番手福岡の皆中の活躍などもあり、12—10で振り切った。

試合後、福岡は「勝ててほっとした。今年もインターハイに行ける」と笑顔を見せた。声援には山畠主将も感謝を寄せ、「力をもらった。全部員が一丸になって戦っている気持ちになれた」と話した。

昨年12月の全国選抜大会では準優勝に輝いた。しかし、今年4月下旬の県春季大会決勝では阿波に敗れるなど、苦しんだ時期もあった。いま一度、自分たちの射を見詰め直し、一枚しかない全国切符を獲得した。

学校の弓道場には「夢中　日本一　本気からしか本物の自信は生まれない」との言葉が掲げられている。「選抜の準優勝で日本一は夢物語ではないと実感した」と福岡と山畠主将。冬に得た自信と教訓を胸に、夏の全国制覇を本気で目指す。

（岩村純志・写真も）

男子団体決勝リーグ　2連覇した鳴門渦潮の（左から）松尾、藤髙、三原、竹口、上西

女子は富岡東 4大会連続

▽決勝

富岡東 105（21—17、26—15、30—12、28—17）61 城北

のドライブや中島の3点シュートなどで着実にリードを広げた。前田や吉井もゴール下に切り込んで相手のファウルを誘っ

【城北】

	得	③	野	自	反
	2	0	1	0	3
	17	0	8	1	2
	4	0	2	0	3
	9	2	1	1	2
	12	0	6	0	1
	3	0	1	1	2
	0	0	0	0	1
	3	1	0	0	0
	0	0	0	0	1
	3	1	0	0	0
	8	2	1	0	0
	0	0	0	0	0
	61	6	20	3	15